

# 專門基礎分野

齒科衛生統計

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科衛生統計	3学年	後期	講義	1	8
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
小野 ちひろ	金曜日・4講目			講義時に連絡	

## 1. 授業の一般目標と到達目標

### <一般目標>

歯・口腔の健康と予防に関わる保健情報を把握し、保健統計の手法によって問題解決を図る。

### <到達目標>

- ①EBMを説明できる。
- ②疫学の目的を説明できる。
- ③調査方法を分類して、説明できる。
- ④口腔清掃状態の指数を説明できる。
- ⑤保健情報の収集方法を説明できる。

## 2. 授業の進め方(授業の方法)

講義

## 3. 教科書

最新歯科衛生士教本 歯・航空の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学

## 4. 参考図書・資料

## 5. 授業心得

- ①理由のない遅刻・中途退出
- ②私語・携帯オン・居眠り
- ③その他授業に差し障りのある行為に対する諸注意

## 6. 評価の方法

・定期試験 100%

## 7. その他

令和4年度(11期生) 年間授業計画 科目：歯科衛生統計

回	修復主題	修復内容
1	保健情報統計概論	・保健情報とは
2	保健情報と保健統計	・保健統計とは・保健情報の種類
3	保健情報と疫学	・疫学総論・健康障害の発生要因・疫学の方法論
4	歯科疾患の指数	・数量化と指数・齲蝕の指数・歯周疾患の指数 ・口腔清掃状態の指数
5	保健情報の分析手順	・保健情報の収集・調査・母集団と標本抽出
6	保健統計の方法	・データの特性・記述統計
7	保健情報の分析演習	・口腔内および口腔周囲の観察ポイント
8	情報の保護と倫理	・情報の特性

# 専門分野

高齢者・障害者歯科(摂食嚥下含む)

歯科予防処置・う蝕予防処置法

歯科保健指導法

看護学概論

救急蘇生法

歯科診療補助法

臨地実習・臨床実習

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
摂食・嚥下	3 学年	前期	講義	1	8
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
岡田 一哉	金曜日・3講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p>&lt;一般目標&gt; 摂食・嚥下障害の概要と摂食機能訓練法の基礎知識を習得する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; ①摂食・嚥下に関する解剖について理解できる。</p> <p>②摂食・嚥下機能とその障害の概略について理解できる。</p> <p>③摂食・嚥下機能のスクリーニング検査ができる。</p> <p>④摂食・嚥下障害に対する機能療法ができる。</p>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プリントを配布</li> </ul>					
3. 教科書					
「歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション」最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」「障害者歯科」					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
<p>①理由のない遅刻・中途退出</p> <p>②私語・携帯オン・居眠り</p> <p>③その他授業に差し障りのある行為に対する諸注意</p>					
6. 評価の方法					
定期試験 100%					
7. その他					

令和4年度(11期生) 年間授業計画 科目：摂食・嚥下

回	修復主題	修復内容
1	摂食・嚥下の基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂食・嚥下の定義</li> <li>・誤嚥と誤嚥性肺炎について</li> </ul>
2	摂食・嚥下のメカニズム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂食・嚥下にかかわる器官の解剖</li> <li>・整理とその障害</li> </ul>
3	ライフサイクルと摂食・嚥下障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達期に機能獲得と摂食・嚥下障害</li> <li>・成人期の摂食・嚥下障害</li> <li>・老年期の機能衰退と摂食・嚥下障害</li> </ul>
4	摂食・嚥下要害の観察と評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーニング検査</li> </ul>
5	摂食・嚥下訓練の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間接訓練(基礎訓練)</li> <li>・直接訓練</li> </ul>
6	アプローチの実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームアプローチ</li> </ul>
7	口腔ケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔内および口腔周囲の観察ポイント</li> <li>・基本的な口腔ケア</li> </ul>
8	総まとめ 国家試験対策	

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科予防処置法	3 学年	通年	講義・演習・実習	3	45
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
椎名 美貴／他	金曜日・3講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p>&lt;一般目標&gt; 歯科予防処置に関する最新の口腔保健管理の方法を理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・う歯や歯周病の病原性を説明できる。</li> <li>・最新のう蝕管理方法を体験する。</li> <li>・最新の歯周治療を説明できる。</li> <li>・インプラントを説明できる。</li> </ul>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
<p>講義・演習・実習</p> <p>講義と演習、講義と実習の同時進行</p>					
3. 教科書					
<p>最新歯科衛生士教本「歯科予防処置法・歯科保健指導法 第2版」医歯薬出版株式会社</p> <p>最新歯科衛生士教本「口腔保健管理」全国歯科衛生士教育協議会 監修</p>					
4. 参考図書・資料					
なし					
5. 授業心得					
<p>決められた期日にレポートを提出</p> <p>授業に使用する教材を忘れない。</p>					
6. 評価の方法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験(100%)</li> </ul>					
7. その他					

回	修復主題	修復内容
1	歯周病の病態と原因	歯周病の基礎知識
2	歯周病の審査・診断Ⅰ	歯周組織検査(歯周ポケット)
3	歯周病の審査・診断Ⅱ	歯周組織検査(レントゲン・口腔内写真)
4	治療における歯科衛生士の役割	モチベーション・ルートプレーニング
5	歯周治療の流れⅠ	スケーリング・ルートプレーニング
6	歯周治療の流れⅡ	細菌・抗菌療法
7	歯周治療の実際Ⅰ	炎症とカのコントロール・リスクマネジメント
8	歯周治療の実際Ⅱ	歯周外科手術(再生療法) インプラント治療
9	歯周病の予防	若年者から必要な歯周病予防指導
10	歯科衛生士の歯周治療	メンテナンス・臨床例
11	最新のインプラント治療Ⅰ	インプラント治療の基礎知識
12	" 2	インプラント治療の概要
13	" 3	インプラント治療における歯科衛生士の役割
14	" 4	インプラント治療の実際Ⅰ
15	" 5	インプラント治療の実際Ⅱ
16	模擬患者実習 1-①	患者を想定したう蝕予防実習Ⅰ
17	" 1-②	"
18	" 1-③	"
19	" 1-④	"
20	模擬患者実習 2-①	患者を想定したう蝕予防実習Ⅱ
21	" 2-②	"
22	" 2-③	"
23	" 2-④	"
24	口腔常在微生物Ⅰ	口腔の防御体性
25	" 2	細菌を認識するTLR
26	" 3	口腔内微生物の分布
27	プラークバイオフィルム	プラーク細菌の代謝
28	う蝕原生バイオフィルム	甘味料とう蝕誘因性
29	歯周病原生嫌気性菌Ⅰ	プラーク細菌の歯周病原性因子
30	歯周病原生嫌気性菌Ⅱ	歯周病抗菌薬療法



31	全身疾患とデンタルプラーク細菌	老人性肺炎・糖尿病への関与
32	口腔内感染症	口腔粘膜とヘルペスウイルス
33	口腔外感染症	MRSA・ウイルス・インフルエンザ・SARS
34	抗菌療法の限界	化膿性疾患・口腔カンジタ
35	バイオフィルム問題	デンタルプラークと細菌の関連演習とレポート作成
36	病原性に関する問題	う蝕・歯周病原性に関する演習とレポート作成
37	ウイルスに関する問題	ウイルスに関連する演習とレポート作成
38	感染防御問題	感染防御実習とレポート作成
39	う蝕予防プログラム演習Ⅰ	う蝕予防プログラムに関連する演習問題
40	” 2	”
41	” 3	”
42	歯周予防プログラム演習Ⅰ	歯周病プログラムに関連する演習問題
43	” 2	”
44	” 3	”
45	総合演習	総合演習問題

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科保健指導法	3 学年	通年	実習	3	45
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
田村 智美・他	金曜日・1 講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p>&lt;一般目標&gt; 健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持し、増進するために、 プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を修得する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療室における歯科衛生士としてのマネジメントができる。</li> <li>・要介護の口腔ケアができる。</li> <li>・口腔ケアに関する演習や実習を行い、プロフェッショナルケアに関する対応を学ぶ。</li> <li>・口腔保健に関するマネジメントができる。</li> <li>・訪問歯科保健指導の基本的知識や手技、要介護者の栄養管理ができる。</li> <li>・専門的な口腔ケアに関する知識や技術を身につける</li> </ul>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
講義・演習・実習 講義と演習、講義と実習の同時進行					
3. 教科書					
最新歯科衛生士教本：歯科予防処置論・歯科保健指導論 最新歯科衛生士教本：口腔保健管理 最新歯科衛生士教本：高齢者歯科 第2版 国家試験問題集					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
決められた期日にレポートを提出 授業に使用する教材を忘れない。					
6. 評価の方法					
・定期試験 100%					
7. その他					

回	修復主題	修復内容
1	口腔保健マネジメント 1	保険制度における歯科診療報酬の概要
2	// 2	歯科治療と予防歯科 診療報酬の違い
3	// 3	口腔管理料 う蝕予防編
4	// 4	口腔管理料 歯周治療編
5	訪問口腔衛生指導 1	歯科衛生士と訪問指導
6	// 2	訪問歯科保健指導の基本的知識1
7	// 3	訪問歯科保健指導の基本的知識2
8	// 4	訪問歯科保健指導の基本的知識3
9	// 5	訪問歯科保健指導の基本手技1
10	// 6	訪問歯科保健指導の基本手技2
11	// 7	要介護者の栄養管理 栄養サポートチームとは
12	// 8	要介護者の栄養管理 NSTの実際
13	// 9	要介護者の栄養管理 各種嚥下調整食
14	// 10	要介護者の栄養管理 経管栄養・食形態
15	// 11	在宅における要介護者への訪問指導の実際1
16	// 12	在宅における要介護者への訪問指導の実際2
17	// 13	施設における要介護者への訪問指導の実際1
18	// 14	施設における要介護者への訪問指導の実際2
19	口腔機能向上支援 1	口腔の機能について理解する
20	口腔機能向上支援 2	口腔の機能について事前アセスメントがとれる
21	口腔機能向上支援 3	口腔機能向上のための具体的なプログラムについて理解できる
22	口腔機能向上支援 4	口腔機能改善管理指導計画を立てることができる
23	口腔機能向上支援 5	モニタリング・事前アセスメントの必要性が理解できる
24	臨床での口腔機能演習 1	口腔機能訓練法の応用技能演習1
25	// 2	口腔機能訓練法の応用技能演習2
26	// 3	口腔機能訓練法の応用技能演習3
27	// 4	口腔機能訓練法の応用技能演習4
28	臨床での口腔ケア 1	口腔ケアの応用知識と技能演習1
29	// 2	口腔ケアの応用知識と技能演習2
30	// 3	口腔ケアの応用知識と技能演習3

31	// 4	口腔ケアの応用知識と技能演習4
32	最新の口腔保健問題演習 1	臨床での歯科保健指導への対応演習1
33	// 2	臨床での歯科保健指導への対応演習2
34	// 3	臨床での歯科保健指導への対応演習3
35	// 4	臨床での歯科保健指導への対応演習4
36	// 5	臨床での歯科保健指導への対応演習5
37	// 6	臨床での歯科保健指導への対応演習6
38	// 7	臨床での歯科保健指導への対応演習7
39	// 8	臨床での歯科保健指導への対応演習8
40	// 9	臨床での歯科保健指導への対応演習9
41	// 10	臨床での歯科保健指導への対応演習10
42	小集団指導 実施1	高校生への歯科衛生教育実習1
43	// 2	高校生への歯科衛生教育実習2
44	// 3	高校生への歯科衛生教育実習3
45	総括	

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
看護学総論	3学年	前期	講義	1	8
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccees	
吉澤 親代	金曜日・4講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p>&lt;一般目標&gt;            歯科衛生士としてどのように看護と向き合うか、看護の基本的な考え方、基礎知識を習得する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;            それぞれが看護を通じて患者との接し方、観察力を身につけ、臨床現場で応用できるようにする。</p>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
毎回一つのテーマに関して、基本的な内容を解説、その後全員で討論する形式を予定					
3. 教科書					
看護学概論					
4. 参考図書・資料					
歯科衛生士のための看護学大意					
5. 授業心得					
各自が毎回自分自身の考え、意見を話せるような積極性を期待したい					
6. 評価の方法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート、ディスカッションに対する学習態度で評価する。</li> <li>・定期試験 100%</li> </ul>					
7. その他					

回	修復主題	修復内容
1	看護への導入・健康病気におけるウェルネスの促進	
2	保健・医療・福祉システム	
3	看護における法的側面	
4	看護における倫理と価値	
5	看護実践のための理論的根拠	
6	看護の対象・ライフサイクルと健康	
7	看護過程・看護ケアの基本的役割	
8	看護における基本的援助技術・看護ケアのマネジメント	

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
救急蘇生法	3 学年	前期	講義・演習	1	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
土 澤 満	月～金曜・1 講目～4 講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p>&lt;一般目標&gt; ・緊急時に必要な手当ができるように、正しい救急法の知識と技術を習得する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急応急手当の重要性と必要性を説明できる。(知識、態度)</li> <li>・心肺蘇生法と AED を用いた除細動の手順を説明できる。(知識、技能)</li> <li>・傷病人を速やかに救助し、正しい救命手当をして医師や救急隊員に引き継ぐまでの応急手当が実践できる。(知識、技能、態度)</li> <li>・心肺蘇生を行うにあたり、感染を防止する手段を説明できる。(知識、技能)</li> <li>・赤十字救急法救急員認定資格取得</li> </ul>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
・講義と演習を交えながら進めます。					
3. 教科書					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本赤十字社「救急法基礎講習教本」</li> <li>・日本赤十字社「救急法講習教本」</li> <li>・日本赤十字社救急法実技セット</li> </ul>					
4. 参考図書・資料					
救急処置ガイド(砂書房) 救急小事典(東京法令出版)					
5. 授業心得					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話の電源を切る。</li> <li>・私語は厳禁。</li> <li>・無断で教室を離れたり、遅れて入室しない。</li> <li>・飲食をしない。</li> <li>・帽子をかぶらない。</li> <li>・演習は動きやすい服装で受講してください。</li> </ul>					
6. 評価の方法					
①定期試験 50% ②実技試験 50%					
7. その他					

回	履修主題	履修内容
1	I部 第1章 救急法について	①救急法とは ③救命の連鎖 ②救急法を実践する際の心得
2	第2章 手当の基本	①観察の基本 ③傷病者への接し方 ②体位の基本 ④現場での留意点
3	第3章 一次救命処置	①一次救命処置とは ③心肺蘇生(CPR)とは ⑤胸骨圧迫 ⑦人工呼吸 ⑨AEDを用いた除細動 ※①～⑩実技含む
4		②一次救命処置の手順 ④呼吸をみる(心肺停止判断) ⑥気道確保 ⑧胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ ⑩気道異物除去
5	I部 学科及び実技まとめ	①学科試験及び実技試験
6	II部 第1章 救急法とは	①救急員に求められる能力 ②救助について
	第2章 急病	①それぞれの症状と対応(心臓発作・脳卒中等)
7	第3章 けが	①けがに対する応急手当での必要性 ②きず ③骨折 ④各部のけが ⑤特殊なけが
	第4章 きずの手当 I	①止血・包帯法
8	第5章 骨折の手当 I	①固定と各部の手当て
	第6章 搬送・救護 II	①搬送方法 ②災害時の心得
9	第4章 きずの手当 II	①止血・包帯法実技
10		
11	第5章 骨折の手当 II	①固定と各部の手当て実技
12		
13	第6章 搬送・救護 II	①搬送方法実技
	総合演習	①今まで学んだ知識と技術を基に、総合救助演習
14	II部 学科及び実技まとめ	①学科試験及び実技試験
15	総合まとめ	①I部、II部 全体のまとめ



科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
歯科診療補助	3 学年	前期	講義・演習・実習	2	30
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
山本 淳子／三上 正代/他	月曜日～金曜日			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p>&lt;一般目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最新の歯科診療の知識を深め、技能および技術を習得する。</li> <li>習得した知識・技能・技術と実習を通して確認する。</li> </ul> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>患者の体を示す臨床検査の安全で正確に実施できるような補助を習得する。</li> <li>歯科診療において患者の全身状態を把握することができる。</li> <li>バイタルサイン(体温・脈拍・血圧)測定、尿検査や血液検査の意義、方法を学ぶ。</li> <li>審美歯科における歯科衛生士の役割を理解できる。</li> <li>レーザー治療の補助ができる。</li> <li>口腔筋機能訓練を理解し実施できる。</li> </ul>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
<p>講義・演習・実習</p> <p>講義と演習、講義と実習の同時進行</p>					
3. 教科書					
<p>最新歯科衛生士教本: 歯科診療補助 第2版 医歯薬出版</p> <p>新歯科衛生士教本: 歯科材料の知識と取扱い</p> <p>新歯科衛生士教本: 臨床検査法</p>					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
<ul style="list-style-type: none"> <li>決められた期日にレポートを提出</li> <li>毎回の授業内容を確実に自分のものにしていくこと。</li> </ul>					
6. 評価の方法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 100%</li> </ul>					
7. その他					

回	修復主題	修復内容
1	臨床検査と歯科衛生士の役割	臨床検査実施の意義と歯科衛生士の関与のあり方を学ぶ
2	生理検査	体温の測定・体温の変動
3	生理検査	脈拍の測定・脈拍数の正常値と生理的変動・血圧の測定・血圧の正常値と生殖的変動
4	尿検査	尿とは、尿検査の必要性、採取法、
5	尿検査	尿検査で何がわかるか・尿中に含まれる物質
6	血液検査	血液組成、血液型(ABO式血液型・Rh式血液型・交差適合試験)
7	貧血の検査、出血性素因	貧血の種類、貧血の検査
8	感染症の検査	感染症の種類、感染症の検査
9	肝機能検査	肝臓の構造と機能・肝臓検査
10	糖尿病の検査	糖尿病とは、検査法、血糖値の測定
11	病理検査	病理検査とは、
12	口腔領域の検査	齲蝕活動性試験、根管内細菌培養試験
13	スポーツ歯科の補助1	スポーツ歯科の概要
14	スポーツ歯科の補助2	マウスガードの基礎知識
15	スポーツ歯科の補助3	マウスガードの製作実習
16	審美歯科の補助1	ホワイトニングの概要
17	審美歯科の補助2	ホワイトニング実習
18	審美歯科の補助3	ホワイトニング実習
19	審美歯科の補助4	ホワイトニング実習
20	レーザー治療の補助 1	レーザー治療の概要
21	レーザー治療の補助 2	レーザー治療の実際 症例紹介
22	口腔筋機能訓練法1	口腔筋機能訓練の概要
23	口腔筋機能訓練法2	口腔筋機能訓練の方法
24	口腔筋機能訓練法3	口腔筋機能訓練の実習
25	最新の歯科治療1	臨床からみた歯科治療への対応実習1
26	最新の歯科治療2	臨床からみた歯科治療への対応実習2
27	最新の歯科治療3	臨床からみた歯科治療への対応実習3
28	最新の歯科治療4	臨床からみた歯科治療への対応実習4
29	最新の歯科治療5	臨床からみた歯科治療への対応実習5
30	総括	

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
臨地・臨床実習	3 学年	通年	実習	10	225
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室		担当教員のaccess		
三上 正代 / 臨床実習指導教員/他	月曜日～木曜日(1 講目～4 講目)		講義時に連絡		
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p>&lt;一般目標&gt;</p> <p>これまでの講義・実習によって習得した基礎的な知識や技術を整理し、歯科衛生士の三大業務である歯科予防処置・歯科保健指導・歯科診療補助の理解を深め習熟できる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>消毒・滅菌、器具・器材の取り扱い、診療の補助・介助、患者の接遇、歯科予防処置、歯科保健指導など歯科衛生士業務一般を学び、習得する。</p> <p>直接患者さんと接することによって、健康の理解と、いろいろの変化に応じた適切な対応能力を養う。</p>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
歯科医院・病院歯科口腔外科での実習					
3. 教科書					
4. 参考図書・資料					
5. 授業心得					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・爪、頭髪等の身だしなみを整えて臨むこと。</li> <li>・アクセサリー、時計ははずす。</li> <li>・医療人としての基本態度を心がける。</li> </ul>					
6. 評価の方法					
・実習評価 100%					
7. その他					

令和4年度(11期生)

年間授業計画

科目：臨地・臨床実習

回	修復主題	修復内容
1	臨床実習	診療室での歯科衛生士の業務を実習する。
2	歯科医院を実習	
3	病院歯科口腔外科実習	口腔外科での歯科衛生士業務を見学する。
4		
5	計75日間	

# 選択必修分野

医療保険事務

総合学習 I・II

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
医療保険事務	3 学年	前期	講義	2	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のaccess	
門脇 ひとみ/ 他	金曜日・2講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p>&lt;一般目標&gt;</p> <p>歯科衛生士として必要な健康保険患者の受付業務を行うために、歯科診療報酬請求事務について修得する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>①保険の種類がわかる。  ②歯科における保険の仕組みがわかる。  ③初期う蝕の治療について算定方法がわかる。  ④歯髄炎の治療について算定方法がわかる。  ⑤歯根膜炎の治療について算定方法がわかる。  ⑥歯周疾患の検査・基本治療・手術・指導料の算定方法がわかる。  ⑦粘膜などの口腔内疾患の治療について算定方法がわかる。  ⑧義歯の算定方法がわかる。  ⑨冠・Br の修理、再装着、未来院の算定方法がわかる。  ⑩診療報酬明細書の作成ができる。</p>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>講義で修得した知識を基に、レセプト作成の演習を行う。</li> </ul>					
3. 教科書					
使用しない					
4. 参考図書・資料					
歯科診療報酬明細書・点数表					
5. 授業心得					
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業には集中して取り組むこと。</li> <li>授業に差しさわりのある私語は厳禁とする。</li> </ul>					
6. 評価の方法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験 100%</li> </ul>					
7. その他					

回	修復主題	修復内容
1	医療制度の沿革	日本における医療制度
	医療保険制度総論	医療をとりまく法律(関係法規)
	医療保険制度の基礎知識	保険の種類
2	歯科医療保険制度	歯科における保険の仕組み
3~5	初期う蝕の治療	治療の概要、算定方法
6	歯髄炎の治療	病名の種類と治療の流れ
7	歯根膜炎	病名の分類、手術・検査などにおける算定方法
8		その他硬組織の治療
9	歯周疾患	検査・基本治療・手術・指導料の算定方法
10	その他の口腔内疾患の治療	粘膜などの疾患
11	欠損補綴 1	加工義歯
12	// 2	有床義歯の区別および作成の流れ
13	// 3	有床義歯の床裏装・修復
14	修理・再装着	冠・Brの修理、再装着、未来院の算定
15	総仕上げ	

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
総合学習	3 学年	後期	講義・演習	2	30
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
三上 正代・他	月曜日～金曜日   講目～4講目			講義時に連絡	
1. 授業の一般目標と到達目標					
<p>&lt;一般目標&gt;</p> <p>3年間学んだ知識、技術の集大成を行う。</p> <p>第1学年、2学年で習得した知識や技術、臨床実習で習得した技術をもとに、総合的理解力や判断力を養う。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助に関する知識・技能・技術が総合的に実施できる。</li> <li>・ 社会保障制度の基本的知識を学ぶとともに、社会福祉、医療保険の概要について学び、歯科との具体的ななかかわりについて理解する。</li> </ul>					
2. 授業の進め方(授業の方法)					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義、演習、レポート作成</li> </ul>					
3. 教科書					
最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版 歯科予防処置論・歯科保健指導論					
4. 参考図書・資料					
<p>ポイントチェック! 歯科衛生士国家試験対策① 第5版</p> <p>ポイントチェック! 歯科衛生士国家試験対策② 第5版</p> <p>ポイントチェック! 歯科衛生士国家試験対策③ 第5版</p> <p>ポイントチェック! 歯科衛生士国家試験対策④ 第5版</p> <p>ポイントチェック! 歯科衛生士国家試験対策⑤ 第5版</p>					
5. 授業心得					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自それぞれに、目的意識を持って臨むこと。</li> </ul>					
6. 評価の方法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期試験100%</li> </ul>					
7. その他					



回	修復主題	修復内容
1	臨床における基礎的総合演習1	・基礎的な知識・技能・技術を想定した総合演習1
2	臨床における基礎的総合演習2	・基礎的な知識・技能・技術を想定した総合演習2
3	臨床における基礎的総合演習3	・基礎的な知識・技能・技術を想定した総合演習3
4	臨床における基礎的総合演習4	・基礎的な知識・技能・技術を想定した総合演習4
5	臨床における基礎的総合演習5	・基礎的な知識・技能・技術を想定した総合演習5
6	臨床における基礎的総合演習6	・基礎的な知識・技能・技術を想定した総合演習6
7	臨床における基礎的総合演習7	・基礎的な知識・技能・技術を想定した総合演習7
8	臨床における基礎的総合演習8	・基礎的な知識・技能・技術を想定した総合演習8
9	臨床応用における総合演習1	・臨床での歯科治療を想定した総合演習1
10	臨床応用における総合演習2	・臨床での歯科治療を想定した総合演習2
11	臨床応用における総合演習3	・臨床での歯科治療を想定した総合演習3
12	臨床応用における総合演習4	・臨床での歯科治療を想定した総合演習4
13	臨床応用における総合演習5	・臨床での歯科治療を想定した総合演習5
14	臨床応用における総合演習6	・臨床での歯科治療を想定した総合演習6
15	臨床応用における総合演習7	・臨床での歯科治療を想定した総合演習7
16	臨床応用における総合演習8	・臨床での歯科治療を想定した総合演習8
17	最新治療における総合演習1	・最新の歯科治療を想定した総合演習1
18	最新治療における総合演習1	・最新の歯科治療を想定した総合演習2
19	最新治療における総合演習1	・最新の歯科治療を想定した総合演習3
20	最新治療における総合演習1	・最新の歯科治療を想定した総合演習4
21	最新治療における総合演習1	・最新の歯科治療を想定した総合演習5
22	最新治療における総合演習1	・最新の歯科治療を想定した総合演習6
23	最新治療における総合演習1	・最新の歯科治療を想定した総合演習7
24	最新治療における総合演習1	・最新の歯科治療を想定した総合演習8
25	症例に基づく総合演習1	・臨床例を想定した総合演習1
26	症例に基づく総合演習2	・臨床例を想定した総合演習2
27	症例に基づく総合演習3	・臨床例を想定した総合演習3
28	症例に基づく総合演習4	・臨床例を想定した総合演習4
29	症例に基づく総合演習5	・臨床例を想定した総合演習5
30	症例に基づく総合演習6	・臨床例を想定した総合演習6

科目名	学年	開講期間	授業形態	単位数	コマ数
卒業研究	3 学年	通年	演習	1	15
担当教員名	開講の曜日・時間帯・教室			担当教員のacces	
田村 智美・山本 淳子 椎名 美貴・三上 正代	月曜日～金曜日			講義時に連絡	

## 1. 授業の一般目標と到達目標

### <一般目標>

学生の興味、将来の方向性に沿って、テーマを選定し、計画、立案に基づいて研究を実施して、その結果をまとめることにより、研究への理解と意欲を培う。

### <到達目標>

- ・ 自分の興味、方向性に即して研究テーマを設定できる。
- ・ EBM・EBHの概念を説明できる。
- ・ 研究の計画・立案ができる。
- ・ 実験・調査などの研究を実施できる。
- ・ 実験・調査などの研究を生理、分析できる。
- ・ 結果分析に基づき、新たな課題を抽出、提起できる。
- ・ 一連の研究結果を発表できる。

## 2. 授業の進め方(授業の方法)

- ・ 研究テーマを検討する。
- ・ 研究計画に基づく研究の実施報告
- ・ 研究テーマの整理、分析
- ・ 研究発表

## 3. 教科書

## 4. 参考図書・資料

PCにおける資料検索 図書館での検索

## 5. 授業心得

- ・ 自発的に課題に取り組む姿勢
- ・ 自ら興味をもった事例について考察し、研究をする。

## 6. 評価の方法

- ・ 卒業研究発表 100%

## 7. その他

回	修復主題	修復内容
1	オリエンテーション	卒業研究の概要
2	研究計画の検討1	研究テーマの検討、研究デザイン、研究方法について
3	研究計画の検討2	研究分野の決定、情報収集
4	研究計画の検討3	検討内容に基づく研究計画の検討
5	研究計画の決定	研究テーマ・研究計画の決定 研究計画書作成
6	研究計画発表会	研究計画の発表
7	研究計画の再検討・調整	発表の評価に基づく研究計画の再検討と調整
8	研究の実施	研究計画に基づく研究の実施
9	研究結果のまとめ	研究テーマの整理・分析
10	研究結果の中間発表準備	研究中間発表の準備
11	研究成果中間発表会	研究成果中間発表
12	研究成果の分析	研究結果の整理と分析
13	研究結果のまとめ	研究結果のまとめ、研究成果発表の準備
14	研究発表会	研究発表
15	研究発表会	研究発表